



目標に向かってみんなと一緒に解決することの素晴らしさ

校長 土屋 智樹

南小のあいさつ運動には、児童会の子どもたちが考えたアイデアがたくさん溢れていて、とても魅力的です。魅力的だと感じるものの一つに、昨年度に児童会が提案した南小のよい挨拶の「相手にお辞儀をして笑顔であいさつする」があります。朝、私が子どもたちに挨拶をすると、会釈をしながらにっこりと「おはよう」と返してくれ、私の心はとても温かい気持ちになります。また、その他にも、とてもユニークな取組があり、魅力的な活動に繋がっています。例えば、登校したらあいさつ運動に加わるボランティア児童の呼びかけやお手本となる挨拶をしてくれた児童を放送で紹介するあいさつマスターの取組です。最近では、あいさつ運動に加わる低学年のボランティア児童が増えてきて、朝の正門付近は、とても活気に溢れています。

あいさつ運動が大きな盛り上がりを見せてくれるようになったのは、なぜでしょうか。それは、あいさつ運動に全校児童が惹きつけられたからだと思います。あいさつ運動に限らず、運動委員会による体力アップキャンペーンをはじめとする委員会活動や、様々な学年において、学校行事ごとの実行委員の活動など、学校では、子どもたちが主体的に教育活動に参加できるよう様々な工夫を試みています。どうすれば、周囲から主体的な協力を引き出すことができるのでしょうか。大切なことは何か、私なりに考えてみました。

まずは、何のためにするのか、どんな意味があるのか、自分のビジョンを語り、周囲に理解してもらうことです。しかし、それは自分の考えを押し付けるのではなく、周囲の意見も聴きながら、納得感のあるものではなくてはなりません。一緒に創り上げていこうとする姿勢と情熱が、相手をその気にさせていくのだと思います。

もう一つは、自分自身が積極的にチャレンジし、失敗から学ぶ姿勢を周囲に見せ続けることです。失敗したことを責めるのではなく、チャレンジしたことを認めることで、安心して挑戦しようとする姿勢が生まれてきます。

最初は、「面倒くさいなあ」と思っていたことも、みんなと一緒に自分も取り組んでいくうちに、「面白かった」「楽しかった」と気持ちが変わり、気が付いたら自分から進んで取り組んでいたという経験はありませんか。仲間と一緒に、ある目標に向かって、協働しながら達成できた時の喜びは、一人の時よりも何倍も嬉しいものです。

学校教育で大切なことの一つに、自分の力でできるようになること、つまり自立した個人を育てることがあります。しかし、これからの社会は、個人では解決が難しいことも増えていくと言われています。そんな時、他者から力を借りたり、協力を得たりすることも必要だと思います。今学校では、日々の授業において、学習課題をみんなと一緒に解決するよう、協働する場面を意図的に設けることで、子どもたちに仲間と協働することの素晴らしさの体験をさせています。

これからも私たちは、目標に向かってみんなと一緒に解決することの意義を伝えていきながら、教師と子どもと一緒に魅力ある学校を創り上げていきたいと考えています。